

## 令和4年度第1回船橋市総合教育会議議事録

日 時 令和5年2月1日（水） 15時30分～16時35分

場 所 船橋市役所9階 第1会議室

### 出席委員

市 長		松戸 徹
教育委員会	教育長	松本 淳
	教育長職務代理者	鳥海 正明
	委員	小島 千鶴
	委員	蓮池 政貴

### 議 題

環境教育の取組状況について

○司会（総務部長）

定刻となりましたので、ただいまから、令和4年度第1回船橋市総合教育会議を開催いたします。本日の会議の進行をさせていただきます総務部長の海老根でございます。よろしくお願いいたします。

また、朝倉委員から欠席する旨のご連絡がございました。ご報告させていただきます。

まず、本日の会議に際しまして、傍聴希望者がございます。総合教育会議は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第1条の4第6項の規定によりまして、原則公開となっております。これに基づきまして、傍聴希望者の入室を許可するものとしてよろしいでしょうか、伺います。

（「異議なし」の声あり）

○司会（総務部長）

ありがとうございます。

それでは、傍聴希望者が入室いたします。

<傍聴者入室>

○司会（総務部長）

傍聴者の方にお願いがございます。傍聴に当たりましては、お渡しいたしました傍聴券に記載されております事項を遵守いただきますようお願いいたします。

次に、本日の会議の資料の確認をさせていただきます。「環境部における環境教育の取組状況について」という題を打ちましたA4をとじたものでございます。それと、「学校教育部における環境教育の取組状況について」と題を打っておりますA3とA4のものをクリップ留めさせていただいております。また、参考に、ふなばし三番瀬環境学習館パンフレット、ふなばし三番瀬環境学習館ワークシートをお配りしております。不足等はないでしょうか。

それでは、次第に従いまして本日の議題に入ってまいります。本日の議題は「環境教育の取組状況について」となります。

では、ここから市長に進行をお願いいたします。よろしくお願いいたします。

○松戸市長

皆さん、こんにちは。大変お忙しい中、令和4年度の総合教育会議にご出席をいただきまして、ありがとうございます。そして、各教育委員の皆様には、学校教育、社会教育、生涯学習の観点からも様々な形で教育行政推進のためにお力添えをいただいております。

とを、まず初めに御礼を申し上げます。本当にいつもありがとうございます。

そして、今、コロナの状況ですけれども、陽性者数の確認数、全数把握をしておりますが、かなり減ってきている状況でございます。今日の発表で212人ですけれども、全体としては以前よりもいろいろな形で陽性者の対応はかなり減ってきている感がございます。その一方で、インフルエンザが懸念されたわけですけれども、今インフルエンザの患者数は増えてはいますし、学校のほうでも7校11学級が学級閉鎖ということですが、その数自体はコロナの前の令和元年の状況と比べると約半数以下です。このまま推移をしていってもらえればいいなと思いますし、子供たちも受験、卒業式等とあるので、こういった形を維持しながら取り組んでいきたいと思っております。

今日はテーマとして、「環境教育の現状について」ということで取り上げさせていただきました。昨年の1月に、新たな教育大綱を教育委員の皆様のご意見を伺いながら策定しましたけれども、新たに「環境に関する学びの場の提供」というものを設けました。コロナのことでずっとこの3年間、関心はそちらに移っていましたが、やはり世界的なテーマとして、「環境」というものをしっかりとやっていかなければいけない状況がございます。

特に子供たちの意識の教育、これは、市として後ほど説明がありますけれども、行政と市民と事業者という3つが組み合わさらないとなかなか効果を上げにくい中で、特に子供たちの意識を育てるために環境学習というのは非常に大事になっていると感じております。毎年やっております「こども未来会議室」でも、SDGsに関連したもの、特に環境に関連したものを子供たちは非常にしっかりとした形で提案してくれています。そういった中で、私は改めて教育の力というものを非常に感じております。子供たちの意識をこれだけ高めることができる教育、だからこそ今、環境に関するいろいろなことを学んでもらって、そして将来彼らが社会の中心になっていくので、船橋市の環境をしっかりと前に進める。そしてまた、ほかの自治体の環境の取組を重ね合わせて、日本としてもそういったものに向かっていきたいということで、今回テーマとさせていただきます。

今日いろいろご意見を伺う中で、行政としても取り入れられるものについてはしっかりと取り入れながらやっていきますので、本日はよろしく願い申し上げます。

それでは、本日の議題に入らせていただきます。

まず、環境部からは環境教育の位置づけや講座の内容及び実績、そして、学校教育部からは、主に学校で今どういったものに取り組んでいるのかという説明をしていただきます。

それでは、よろしく願います。

## ○環境部長

環境部長の御園生でございます。着座にてご説明さしあげます。よろしくお願ひいたします。

先に、配付資料の中でリーフレットが2つございますが、長尺のほうが一般の方用で、もう一つのワークシートが環境学習館のほうに来館いただいた小学生向けのワークシートということでございますので、併せて見ていただければと思います。

それでは、ご説明さしあげたいと思います。

まず、「環境部における環境教育の取組状況について」という資料で説明さしあげますが、資料による説明に入る前に、本市の環境行政について少しご説明さしあげたいと思います。

環境部では、環境基本計画、地球温暖化対策実行計画、一般廃棄物処理基本計画、生物多様性ふなばし戦略、こうした主要な4つの計画を改定し、今年度より食品ロスの削減や海洋プラスチックごみ問題等の新たな環境への取組に加え、環境団体の後継者などを育成することを目的としました「ふなばしエコカレッジ事業」もスタートさせたところでございます。

加えて、国内外で大規模な山火事、あるいは台風、大雨による洪水など、様々な気象災害が頻発し、農作物や生態系への影響が指摘されております。本市におきましても、日本の平均気温が100年で1.28℃上昇していることに対して、本市では平均気温が40年でそれを上回る1.92℃上昇している状況です。30℃以上の真夏日については40年間で約3倍に増えているという状況でございます。こうした気候変動の問題は、避けることのできない喫緊の課題となっているところでございます。

このような状況に対しまして、本市は2050年に温室効果ガスの排出量を実質ゼロにするゼロカーボンの実現に向け、今年度より新たに「ゼロカーボンシティ推進室」を設置いたしました。また、清掃工場のごみ焼却発電の余熱電力を公共施設に送電いたします「自己託送の実証事業」や、「小中学校を含む避難所施設への太陽光発電設備や蓄電池の導入による公共施設の脱炭素化」を進めており、災害時における公共施設の電力の確保に加え、市民への環境啓発や子供たちへの環境教育としての活用も来年度より予定しているところでございます。こうした中、次世代を担う子供たちへの環境学習については最も重要な取組として考えております。

長くなりましたが、この後、資料に基づく説明をさせていただきたいと思ひます。お手元の「環境部における環境教育の取組状況について」をご覧ください。

まず、「1. 環境基本計画での環境教育の位置付け」ですが、環境教育については第3次船橋市環境基本計画における施策の一つとして位置づけております。

添付資料の1をご覧くださいませでしょうか。横判のものになります。環境基本計画の施策体系として示しているものでございます。環境基本計画では目指す環境像を「みんなでつくる 恵み豊かで持続可能な都市 ふなばし」とし、5つの施策の柱それぞれにひもづく15の基本施策で構成してございます。環境教育につきましては、13番目の「船橋の環境を担うひとづくり」におきまして、10年後の目指す環境や環境の方針を定め、環境教育の推進を施策の一つに掲げて進めているところでございます。

それでは、資料のほうにお戻りいただきまして、引き続きご説明さしあげます。

次に、2ページをお開きください。「2. 小中学校校長研修会で行った周知について」でございます。令和3年までは小学校4年生を対象に環境学習を進めておりましたが、環境問題に対する意識を向上させ、行動変容につなげていただくためには、継続的な環境学習に取り組んでもらう必要があることから、今年度より小学校3年生から中学校3年生まで範囲を広げ地球温暖化の防止、生物多様性、海洋プラスチックごみ問題、ごみの減量の4つの環境問題について、3年生から4年生、5年生から6年生、中学生向けの3段階に区分し、パワーポイントの資料を教材として作成し、小中学校校長研修会において各学校での環境教育教材として提供、または環境部職員による出前講座の実施を依頼させていただいております。4つの環境問題のパワーポイントの資料及び校長研修会の依頼の詳細につきましては、添付させていただいております資料2及び資料3のとおりとなります。

資料の説明は省かせていただきますが、次に、「3. 取組実績」についてでございます。

今年度は子供たちへ分かりやすい言葉や表現を心がけ、難しい印象を与えないように配慮し、令和4年度は1月末現在で、小学校のみではございますが27校、4,192人の児童生徒へ環境学習を実施いたしました。詳細につきましては、やはり添付資料4のとおりでございます。

環境学習では子供たち同士で話し合う時間を設けるなど、子供たち自身が考えることを重点に進め、集中して話を聞き、子供たちもメモを取るなど、興味や意欲を感じられた様子だったと担当した職員からは聞いてございます。子供たちからは、「ごみを分別し減らしたい」「家での節電にやれることから取り組みたい」などの感想もいただいております。

次に、「4. 現時点での課題等」についてでございます。

まず、「(1) 受講した学校側の課題」としましては、①として、学習後に環境配慮行動への意識変容につながるための学習内容の振り返りなど、次のステップを充実させたい。

②として、環境についてもっと深く学習した上で児童生徒への指導へつなげるほうがよりよい取組と考えることから、「先生方に対する環境についての学習機会を確保してもらいたい」などのご意見をいただいております。

また、「(2) 環境部の課題」としましては、本市には小学校55校、中学校27校ある中で、今年度これまでの実績は小学校27校ということもございまして、①学校・児童生徒への学習の機会を十分に提供できていない、②受講した児童生徒がより理解を深め自ら身近な問題として捉え、学習後に問題解決に向けた行動に移すことができるよう工夫した教材づくりが必要である。③子供たちの理解がより進む環境講座にするため、担当の先生方との事前打ち合わせをより充実させることが必要である、などの課題も見えたところでございます。

次に、3ページになります。「5. 研究奨励校での環境学習」についてでございます。

令和4年度より、小学校1校、中学校1校を研究奨励校に指定し、実践研究に取り組んでいるとのことで、環境部では、(1)、(2)にございますとおり、各研究奨励校の教務主任等の先生方と環境部職員による打合せを実施させていただき、南本町小学校におきましては、令和4年10月14日に5年生67人、2クラスに対しまして、「私たちの生活はどうなるの?～生物多様性について～」という内容で講義を実施しております。

また、高根台中におきましては、環境部で用意させていただきました環境教育の教材の4つのテーマ、先ほどご紹介しましたが、その全てを来年度、令和5年7月4日、11日の2日間で、3年生4クラス、117名を対象に実施する予定でございます。

最後に、「6. 今後について」でございます。これまで地球温暖化の防止、生物多様性、海洋プラスチックごみ問題、ごみの減量、この4つの環境問題についてもっと深く学習させたいとの先生方のご要望に応えるため、環境問題のテーマに特化したミニ講座、例えば「電気はどうやってできているのか」、「市の地形の特徴と生物の関係」、「プラスチックの種類とその利用状況」、「食品の加工や販売事業者の食品ロス対策」などを組み合わせ、より子供たちの「なぜ?」「どうして?」に応え、子供たち自身に何ができるかを考える環境学習にしていきたいと思いますと考えてございます。

環境部からのご説明は以上となります。よろしく願いいたします。

○松戸市長

では、続けて学校教育部、お願いします。

○学校教育部長

学校教育部長の磯野でございます。よろしくお願いいたします。

それでは、学校教育部における環境教育の取組状況についてご説明をさせていただきます。資料の1枚目、A4のもので「学校教育部における環境教育の取組状況について」をご覧ください。

まず、「1 はじめに」をご覧ください。環境教育は、学習指導要領におきまして現代的な諸課題に関する教科横断的な教育内容として扱われております。特定の教科だけで指導するのではなく、様々な教科の中で横断的に指導するよう示されております。具体的な教科といたしましては、(3)の表にお示ししましたとおり、小学校では、理科、生活科等そこに示されている教科、中学校では、理科、社会科等そこに示されている教科等で扱うことになっております。

A3の資料1につきましても、学習指導要領の総則を資料として添付してございます。

教科書がある教科等につきましては、教科書が学習指導要領に示された内容を網羅するようにつくられておりますので、教科書の内容を学習すると環境に関する内容も学習できるようになっております。総合的な学習の時間につきましては教科書がございませんので、学習指導要領には環境に関する内容は取り扱うべき課題の例として示される形になっております。

なお、教科横断的に指導する内容は学校教育全体で行うものなので、学習指導要領に具体的に示されていない教科等において扱っても問題はございません。

続きまして、「2 船橋市立学校における環境教育」をご覧ください。各学校における環境教育の取組について説明させていただきます。

まず、(2)の①各教科等の取組でございます。各教科につきましては、先ほどご説明したとおり、教科書で取り扱われている環境に関する内容が入っておりますので、その内容を指導しております。

資料1枚目の裏面になります。一部の学校では教科書に示された内容をさらに発展させて実施しております。国語では教科書の内容を発展させて地球温暖化について調べる。図工についてはプラスチックごみを使ってプラごみアートを作製するなど発展的に行っているところでございます。

続きまして、②総合的な学習の時間の取組についてでございます。総合的な学習の時間で取り扱う内容は、学校長が各校の実態に合わせて決めておりますが、本市では環境に関する内容を議題として設定することを推奨しております。年度初めの校長会議におきまし

ても、教育長から積極的に取り組むよう指示いたしました。令和4年度は、小学校では全55校、中学校では14校で環境に関する内容を探究課題として設定し、学習を行っております。具体的な内容につきましてはA3の資料2のほうでまとめてございますので、後ほどご覧ください。

③の校外学習についてです。校外学習の見学先も各校で設定しております。本市の小学校では、全校がふなばし三番瀬環境学習館を訪れ、施設を活用して環境学習に取り組んでおります。ふなばし三番瀬環境学習館以外にも環境学習を行える施設がたくさんあります。例えば科学未来館などがございます。それらを校外学習の行き先にした学校は、小学校では29校、中学校では8校ございました。

そのほかにも、④で示してありますが、児童会や生徒会活動等で「緑の募金」や「節水や節電の呼びかけ」などの取組をしている学校もあります。

続きまして、(3)の研究校の取組についてご説明いたします。本市の環境教育のより一層の充実を図るため、令和4年度から小学校では南本町小学校、中学校では高根台中学校を研究奨励校に指定し、実践研究に取り組んでおります。今年度からの実践になりますので研究紀要等は現在作成中ですが、各校の具体的な取組について資料にお示しいたしました。

南本町小学校での実践としましては、今年度から校内研究を環境教育に設定し、年間を通して各学年で授業研究を実施しております。資料の2枚目をご覧ください。そこには1年生から6年生の取組の内容が記載されております。

続きまして、高根台中学校では、総合的な学習の時間を中心に進めており、「こども未来会議室」で「ごみの削減を目的としての給食のストローレス化及び牛乳パックのリサイクル」について提案しましたことも学習の成果の一つでございます。環境教育を通して、子供たちの環境に対する関心は高まってきており、環境問題を自分ごととして捉え、身近な環境を守ることの大切さに気づいたり、食べ物を残さない、ごみを減らす、物を大切にリサイクルするなど、自分たちにできる対策を考えている姿が見られるようになってきております。

最後に、現段階での来年度の各校における環境学習の取組の予定についてでございます。

小学校では55校全ての学校において、中学校では、今年度取り組んだ学校に加えて新たに7校が総合的な学習の時間に環境学習に取り組む予定となっております。予定している学習内容の詳細につきましては、A3の資料3にまとめてございます。

現在も各校におきましてそれぞれの環境教育に取り組んでおりますが、各校の取組をよ



り充実させるためにも継続的な取組や、家庭や地域を巻き込んだ取組が重要と考えております。研究校での実践を市内の学校に広めたり、訪問や研修を通して指導を助言してまいりたいと考えております。

以上でございます。

○松戸市長

ありがとうございました。

環境というくりにすると、地球温暖化があつたり生物多様性があつたり、かなり広範囲になってしまい、市のほうの説明も施策の資料がなかったのでちょっと分かりにくかったのですが、委員の皆さんからご意見をいただく前に、何か質問等があれば遠慮なくお出しただければと思います。

小島委員、お願いします。

○小島委員

小島です。指導課からの資料2に関連することになるのですが、非常に面白い取組を各校でされていると思います。教員の皆さんがほかの学校がどういう取組をしているかを知る機会や情報共有というのは、どういう手段や方法があるのでしょうか。お願いします。

○指導課長

指導課でございます。情報共有につきましては、船橋支会という会がありまして、その中で各学校が取り組んだ内容を持ち寄って、「こんなことをやっています。あんなことをやっています。」ということで情報を共有しているところでございます。

○松戸市長

「船橋支会」というのをもうちょっと詳しく説明してもらえますか。

○指導課長

失礼しました。毎月1回、水曜日の午後、総合的な学習の時間も含めて各教科に分かれて、小学校、中学校の先生がそれぞれの担当する教科、小学校でいえば自分が得意とする教科のところに行き、やっている内容を情報共有したり、講師を招いて授業実践を聞いたり、また、担当する学校で授業研究をすれば、その教科の先生たちが集まって子供たちの

実践を見たりというような取組をしております。

○松戸市長

よろしいですか。

○小島委員

ありがとうございます。

○松戸市長

ほかにご質問よろしいですか。

蓮池委員。

○蓮池委員

蓮池と申します。よろしくお願いたします。

環境教育に関する調査で学校ごとの実績を見たときに、若干差異があるなど受け取ってしまったのですが、今のご説明の中でいきますと、一般の授業の中に適切に散りばめて指導しているので、あえて別の形は設けていない学校もあるという解釈でよろしいのでしょうか。

○指導課長

総合的な学習の時間においては、そのとおりでございます。

○蓮池委員

ありがとうございます。

○松戸市長

よろしいでしょうか。

それでは、今、市と教育委員会の学校教育部のほうから説明をさせていただきましたけれども、委員の皆様からご意見をお伺いできればと思います。

まず、蓮池委員から。

○蓮池委員

船橋の環境教育に対する取組は、大変素晴らしいと感じました。今、子供たちが生きている環境というのは、どうしてもアスファルトに囲まれ無機質な状態、ともするとやはり部屋で過ごす時間が多くなって、環境という部分からちょっと離れた生活をしているのかなと感じます。あえて学校の教育課程の中で、小学校1年生から朝顔を愛でるだけでもいいので、生き物に触れることから始まって、そういったものの強さや不思議さを学び、3年生からは、徐々にカリキュラム化したものを段階ごとに継続して行って、船橋市が環境を大切にしている都市であるということが他市から見ても受け取れるような、学力はすごく重要なのですが、学力に加え情操教育の面も含めて、環境全てを愛せる子供を育てる教育過程をさらに進化させて、子供たちに伝えていただけたらありがたいと思いました。

ただ、これを見ている中で一点、あえて各校の采配に任せている部分、その辺の意図としてはどんなものがあるのでしょうか。教育課程の調整に皆さん苦勞されているのは存じ上げているのですが、あえて統一化せずに各学校の采配に任せている部分は、何か大きな意図があってやっているのかなと推測しているのですが、お聞かせください。

○松戸市長

では、お願いします。

○指導課長

総合的な学習の時間におきましては、各学校の校長先生の裁量で、教育課程でどのようなことをやるか、行事のことや環境教育についてやったり、各種、様々なことがあります。ですので、学校によってウエイトを置く部分が若干違ってくるところで、その濃さが変わってきてしまうという状況でございます。

○蓮池委員

ありがとうございます。

○松戸市長

では、鳥海先生。

○鳥海委員

まず、私たちを取り巻くものが全部、環境ということになるかと思いますが、そこに對して意識をしていくことはとても大事だと思います。環境部のご説明から感じたものは、今ある船橋のいろいろな環境をどうやって守っていくかということをもっと意識しましょうという、イメージだったかと思います。そこで途中で地球規模の話が出て、与えられている環境というものをどうやって守っていくかという意識、に重きが行っているなという印象を受けました。決して悪いことではないのですが、もう一つ、環境というのは大人からするとつくっていくものですから、そこにつなげていく教育がとても大事だということを環境部としては意識していただきたいなと思います。

また、環境というテーマを総合的な教育、あるいは横断的な教育で行うというのは、すごく待っていた言葉です。ですから、教科を越えて、どんな教科でもそれを意識することによってつながってくる、そういう意識の一つの注入といいますか、試験的なものかと思えます。ですから、まず計画されていること、既にやられていることの中で、そういった教育のトレーニングをなかなか教員の先生方も受けていらっしやらないかと思えます。外部の先生の中に、とても宝のような講義をされる方もいるかと思えますので、昨年来充実しているオンラインの環境を生かして、それを大事に共有する。これは船橋の全生徒に聞いてほしいといったお話は絶対あるはずです。

中にはやっていく過程で、子供たちになかなか興味を持ってもらえないものもきっとあるかと思えます。いろいろ試みていただいて、これは絶対共有しなければいけないというものに関しては、大事にしていきたいなと思います。外部の先生なんかもどんどん使っていて、意識を高めていっていただきたいなと思います。

まず知っていただくという教育段階、各学年ごと、生徒の成長に応じて課題を持っていただいているのはいいことだと思います。最終的には中学生になって、何となく知識も増えてきて、いろんな学科の勉強もして、将来のことも考え始める頃ですから、それこそいろいろな環境って変えられますよね。今環境を破壊していると言われてることだって、オゾン層なんてつくっちゃえばいいじゃないとか、CO<sub>2</sub>なんて葉っぱがやっているのだから光合成ぐらい人類がもっと積極的にできるようにしようぜというふうになると、ちょっとした発想とか働きかけ、若い頭脳の考え方で、やろうとすることが180度違ってくることもあります。

ですから、恐らく、以前は好ましくないことが、ある発見から非常にいいことになったり、むしろ推奨していいものになることも大いにあるわけです。今、与えられた環境を何となく守れるものもいいとか、世間がこういうことを推奨しているということにとどまら

ず、ちゃんとした問題意識を持って、それこそ理科教育とか数学教育とかいろいろなものを受けることによって、こうすれば克服できるじゃないかと。代表的には、市長の専門かもしれないけれども、回せば電気が起きるわけで、それを中学校で習っているながら電気自動車は何で充電しなきゃいけないんだというふうになると、電気を起こすために核エネルギーを使ったり、火を起こすために何かをやったりとか、化石エネルギーどうこうなんというの、根本からもしかしたら変わってくるかもしれないよ。そういったことを意識して、理科から脱落するきっかけになる電気教育などにも興味を持っていただいたら本当にいい教え方になるし、いい学び方になるはずなんです。

なので、環境を知ってもらう、船橋を知ってもらうというところからだんだん学年を追って行って、中学校になったら、将来、環境を守り、環境をつくり出す、そういった役割を担うんだという意識を持てるように教育環境を提供できたらすばらしいことだと思います。時間がかかることだと思うのですが、そういう意識で開始できれば、さらに良いかなと思います。「総合的」「横断的」というのはすばらしい、うれしい響きでした。

○松戸市長

ありがとうございます。

では、小島委員。

○小島委員

スライドのパワーポイントのイメージもすごく子供にも親しみやすいように工夫をされて資料をつくっていたり、小学校、中学校で発展的な内容にも取り組む学校が現れていて、少しずつ効果が現れ始める時期ではないかなと思っていて、すごく期待するところではあります。

そして、気になるところでは、やはり家庭との連携というか、子供たちがこういうことを学んで実践したいと思うときに、こういうものは一人ではできない。特に自分が生活している家庭と、主に過ごす場所として学校という場所の中で、自分が何をできるのかと。具体的な行動につなげていけるような教育の仕方が必要だと思うのですが、家庭との連携というところにもいろいろ工夫の余地があるのかなと、今の取組状況を見て思ったところです。

例えば、子供たちが牛乳パックをリサイクルするというときに、どこで回収しているのかわからないかもしれない。あるいはスーパーなどで設けられているリサイクルステーション

ヨンとか、衣服の量販店に置かれているリサイクルボックスとか、そういう身近なものの調べ学習などがあると、子供たちもとても身近に感じて興味を持って、自分でも実践できると思ってもらえて、かつ大人になったときに自ら実践していく。そして、その子供世代にそれを伝えていく。そういういい循環が生まれるのではないのかなと思ったところです。なので、そこの部分の研究をより深めてほしいと思います。非常によい取組と思って期待しています。よろしくお願いします。

○松戸市長

ありがとうございます。

教育長の前に、朝倉委員から今日欠席ということでメモをいただいているので、読み上げていただければと思います。

○事務局（総務法制課長）

事務局でございます。ご意見をご紹介します。

船橋市におけるこれまでの環境教育への取組は、網羅的、総合的に行われていると考えます。総合的学習の時間や校外学習なども積極的に行われており、研究校の指定などについても非常に意義のあるものと考えます。今後、環境教育をさらに発展させ、教育大綱に掲げられた他の取組内容ともつなげていくために、以下2点について提案させていただきたいと存じます。

1点目、環境教育と主権者教育のさらなるつながりについて。

これまでの環境教育では、環境問題への理解を深めるとともに自分は何ができるのかということを考えさせるよい機会であり、このこと自体が主権者教育としても意義のあるものと考えます。これに加え、主権者教育の項で目的とされている、社会の中で強調する、主権者としての自覚と責任を培うという点にも着目し、みんなで協力するとどんなことができるか、近隣市や流域市町村との連携と責任といった視点に発展させていくことで、主権者教育としても意義のある展開が可能ではないかと考えます。

2点目、環境教育とふるさと船橋への誇りのさらなるつながりについて。

1点目と同様、環境教育の推進は教育大綱で掲げられている「ふるさと船橋への思いの育み」にもつながると考えます。これまでも総合的学習の時間の探究課題においては、環境問題として捉えるのではなく、身近な問題として船橋市の農業などのテーマで進め、そこから発展し、環境に関する内容を取りまとめるような取組がなされているという記載が

あり、まさにこのような取組がとても重要であると考えます。

今般、国の史跡となった取掛西貝塚をはじめ船橋市内の様々な史跡・遺跡は、当時の祖先がどのような環境で暮らし、どのような生活を送っていたのかについて思いをめぐらせることができます。また、その当時に温暖化による海進があったことなど、現代との共通性についても考えさせることができます。こういった船橋ならではの素材を用いた教育プログラムを、多くの小中学校の先生方の科目を超えた連携の下、検討していただいている機会を設けるとよいのではないかと考えます。

以上でございます。

○松戸市長

ありがとうございました。

では、教育長。

○松本教育長

よろしくお願いたします。環境問題、環境教育については、非常に大きな課題であると認識しているところです。今、朝倉委員のお話を伺ったところですが、私自身も環境教育と主権者教育というのは非常に大きなつながりがあるのではないかと考えています。

小学校も中学校も、それから、今話題には出ていませんが高等学校も、環境教育に取り組んでいます。それも各教科で環境教育がございまして。高等学校になると総合的な探究の時間ということになり、生徒が個々に探究していくことが強まるような形になるのですが、要はこれからの未来ですね。先ほどもちょっとお話がありましたが、未来は変えていくことができるわけです。自分の手で社会を変えていくことができる。そこは非常に重要なだろうと思います。自分の環境、各学年、年代によって変わってきますが、子供たちが自分の今置かれている状況の中で何が問題かを考えて、それから、どうしたらいいかということも考え、さらに、そこで議論していくことが大切です。その中でいろんな意見を聞いて行動していく。自分で動くということですね。行動した中で今は何が問題なのかということ、またそれを解決していくということですね。これは主権者教育の本質のところなのですが、自分が行動して環境をどうよくしていくかということをお勉強し、子供の行動力をつけていくということが重要かなと思っています。

私が少し危惧しているのは、小学校の教員は全部の教科をやるので内容が分かっているのですが、中学校、高等学校になると、担当以外の教科でどういうことをやっているのか

というのは、なかなかきちんと確認ができていません。一応、年間指導計画で何をやっているのかというのは、道徳はこういうことをやっていますよと関係するところは見るのですが、環境教育については、こういうことをやっているんだなということを全部の教科で見ることがなかなか難しい状況にあると思っているところもあるので、そういう面で少し学校の教員には話をしていかなければいけないかなと思っています。

先ほど全部の学校で総合的な学習の時間をやったほうがいいのではないかというお話があったのですが、そこはなかなか難しいところです。教育課程は校長が編成しますので、各学校の状況に合わせて、重要な部分は何かということで総合的な学習の時間は編成していきます。全部やれるかというとなかなか難しいところはあるかなと思っているところですが、少なくとも各教科で環境教育というのはしっかり取り組んでいますというところは、学校で確認してもらうようにすることが非常に重要かなと思っているところです。

○松戸市長

ありがとうございました。

それぞれの委員の皆さんからご意見をいただきまして、先ほど朝倉先生の中に農業の話が出てきたので、ちょっとだけ私の経験をご紹介させていただきます。船橋の農業の後継者は非常に多いのですが、「船橋4Hクラブ」という農業の若者の集まりの団体があります。彼らと3年ぐらい前に会っているんな話をしたのですが、そのときに最初に発言した農業後継者は梨農家の人だったのですが、私が行ったときに農業の振興策の話が出るのかと思ったら、最初に言われたのは環境でした。船橋市は環境についてどう考えていますかと。それはなぜかという、農業の後継者たちにとって、気温がどんどん上がって行って、これ以上気温が上がると幸水など今の梨の木の発育が非常に狂ってしまう。そうすると自分たちの仕事の基盤が崩れてしまうと。

また、ほかから出たのは、いろんな種をまくときに黒いビニールシートを敷いてやるのですが、農家1軒当たりものすごい量が出ていて、これはごみとして出して燃やすしかない。その辺を、成分が土に戻るプラスチックのビニールシートを使えばいいのではないかと思うけれども、それはコストが非常に見合わない。この辺をどうしたらいいかというのが、やはり自分たちの意識としては非常に大きな課題になっているというようなこともありました。

今日は、蓮池委員からは情操面を含めて環境に触れる。また、鳥海委員のほうからは、横断的な教育のことと発想の違う気づきのこともお話をいただき、また、小島委員か



らは、本当に身近なところで、入口は子供たちなので入口のところからという話があって、朝倉委員と教育長からは主権者教育の関連性みたいなこともありました。私としても、これは本当に幅広いのですが、市民の皆さんと意識を共有していくためにどうやっていくかというのは行政にとっては具体的に進める上で非常に大事なので、私としても今日いただいた意見は大事にしていきたいと思います。

今日、環境部もいますが、委員の皆さんの意見を聞いて、逆に環境部の感想を聞いていきたいなと思います。

#### ○環境部長

環境部でございます。委員の皆様方からすごく参考になるご意見をたくさんいただきました。環境部として取り組んでいる内容につきましては、先ほどご説明さしあげましたが、やはり子供たちへのアプローチの仕方については、日常生活あるいは学校生活のつながりの中で理解していただくのが子供たちには一番分かりやすいだろうと思っているところでございます。

特に先ほど申し上げたとおり3年生・4年生、5年生・6年生、中学生と、3区分に分けて今年度から実施しておりますが、まだ中学生に対する講習というものができておりません。中学生向けに対しては、先ほど教育長のほうから高校生に上がるとより一層深い内容でというお話もいただきましたので、それぞれの学年に合ったものとして、パワーポイント資料の中では生物多様性については学校給食をテーマに取り上げておりますが、様々な、特に地産地消も含めて船橋の食材とか、あるいは日常生活の中でスーパーマーケットに行ったときとか、いろいろテーマを絞って、子供たちの興味と日常生活の中で何ができるか、それがその後はどうつながるか、こういったことにつなげてまいりたいと考えております。

いずれにしても、今日いただいたご意見を環境部に戻りまして、各課長のほうにも伝えて、今後につなげてまいりたいと考えてございます。

#### ○松戸市長

では、学校教育部、磯野部長、何かありますか。

#### ○学校教育部長

ありがとうございました。環境教育に対する意識というのは年々高まってきているとい

うことは感じております。最初に市長のほうからもお話があったように、こども未来会議室でもかなりの割合で環境に対する提案が多くなってきております。また、このように総合的な学習の時間で一覧にして資料を出ささせていただきましたけれども、やはり子供たちは自分の身近なところで何ができるのかという発想が、非常に頭が柔軟に考えられるので、そこはとても大切にしていかなければいけないかなというのは感じております。

先ほど小島委員からも家庭との問題がありましたけれども、テーマをぼんと取って何時間もかけるということも当然大事なのですが、学校生活の中で、もしくは家庭生活の中で、環境に今自分が身近なところでできることは何だろうというところの気づきをまず持つことがとても大事なのかなということは感じております。今日いただいた意見を参考に、指導課のほうを担当になりますけれども、各学校に情報を提供しながら環境に対する意識を高めていければと考えております。

#### ○松戸市長

追加で何かご発言があれば、遠慮なく言っていただければと思います。

その前に、突然振ってしまいますけれども、公民館などでいろんな講座等があつて、環境部もまた勉強もさせてもらっているのですが、今日、各委員のご意見をいただきましたが、生涯学習部として何かあれば。

#### ○生涯学習部長

生涯学習部でございます。ただいまの皆様のお話を聞いておりますと、小島委員からは学んだことが家庭に行ったときにどうなるのかというご発言もありました。子供たちが知識として環境のことを学んでも、それが自分の日々の暮らしだとか社会の仕組みだとか、そういったものが変わらないと、子供だけがアップデートしてもかえって子供は無力感につながってしまう可能性もあるので、これは子供だけではなくて親や大人や社会全体がこのことについて考えて、それを日々の自分たちの暮らし方だとか行動に結びつけていくようなことがないと、環境学習というのは実りをもたらさないのではないのかなと、改めて皆様のお話を聞きながら感じたところです。

そんな中で、船橋市の生涯学習は、公民館が26館あり、ほかの市に比べるとかなり活発に社会教育がなされている市ではあるのですが、例えば、健康づくりだと全部の公民館でシルバーリハビリ体操があつたり、介護予防の講座があつたりという形で、全部の公民館に行き渡って展開されている状況がございますが、環境についてはまだそこまで行って

いないところがあって、それぞれの利用者のニーズに合わせていくつか講座があったり、環境部から出前講座をやっていただいたり、そのような形で展開しているところがございます。ですので、これからまた生涯学習の場面においても、もう少しSDGsですとか環境のことがいろんな場面で取り上げられるようにしていけたらいいのかなというふうには考えているところでございます。

○松戸市長

それぞれの委員の方から追加で何かあれば。

蓮池委員。

○蓮池委員

私も、今、生涯学習部長がおっしゃられたことに賛成で、子供たちにどんなに学ばせようと思ってやっても、大人が襟を正さなければ、それは子供に伝わっていかないと思いますし、この会議の中で、船橋市が環境に対して子供たちに対してどれだけ熱心に取り組んでいるのかというのは把握できたのですが、もうちょっと子供たちの心にすっと入っていくようなスローガンのようなものがあったらいいのかなと。まず第一には子供ですけれども、大人も目につくような場所で、みんなが一年間通して意識できるような、子供に対してすっと入る言葉があると良いと思います。意識を常に保ってもらうような、そういう発想で併せて考えていくと面白いのかなと。そうすると大人も意識が途切れずに子供の前できちんとした態度が取れる。「船橋、すごいよね」と他市から見られるような、そういう取組があっても面白いのかなと感じました。

○松戸市長

ありがとうございました。

鳥海先生、何か追加であれば。

○鳥海委員

おっしゃるとおりだと思います。市長がおっしゃられたように、農業のお話で、環境に優しいシートにするとお金がかかる。ですから、みんなで環境を守るために負担を子供から大人までシェアするということがとても大事だと思います。行政としては、例えば紙だったら、再生紙が最初はなかなか流行らなかったのは再生紙のほうがコストが高かったか

らです。つくる側としては新品をつくるほうが安いわけです。ですが、やはり負担をしても再生紙というように時間をかけてやっていって、今はどんどん使われるようになってきた。森林もそうですし、使って生かすことってすごく大事だと思いますけれども、どうしてもコストがかかると思うんです。ですから、行政は船橋を守るために、環境保持のためにこういう積極的な負担は本当に前向きな負担ですし、すごく大事だと思います。

私たちは恐らく便利を求めたり、やりやすさを求めて環境を傷つけている部分が大いにあると思うので、多少不便でも私たちの活動は環境を守りながらできるんだというのを学びながら、前向きな生き方をしていただけるような、そういったヒントを子供たちにも与えて、ちょっとした不便もあるかもしれないけれども、負担をシェアするということが恐らくみんなが意識を高めるのにいいことかなと思いました。

○松戸市長

ありがとうございました。

小島先生、いかがですか。

○小島委員

やはりそういう身近なところでやれるちょっとした個人の工夫、それと、あとはそれを科学的に開発するような柔軟な発想を育てる方向とか、いろんなアプローチの仕方があるのが環境問題なのかなと思います。

そういう意味では、様々な観点から、いろんな教科から、それこそ国語の中でも環境に関する文章が載っていて、それを読んだときに、ほかの教科でやったと結びついている、また、理科の授業でああいうことを習った、この理屈でこれは動いているとか、そういう根本的なところからの理解があることが環境問題の解決への裏づけになっていくのかなと思いますので、いろんなアプローチの仕方を考えていければと思います。ありがとうございます。

○松戸市長

ありがとうございました。

教育長、何かありますか。

○松本教育長

先ほど言おうと思っていたことの付け足しになりますが、環境問題というのは最終的には命に関わる問題になるんですね。学校のことだけしか話さなかったのですが、やはり生涯学習という面からも考えていく必要があるのだろうと思います。かなり意識の高い方もいらっしゃると思うんです。そういう方は、例えば先ほど公民館の話が出ましたが、公民館で集まってこの地域をどうしようかというようなことで考えていただけたらとか、そういう場の整備をしていく必要があるのだろうなということを今皆さんのお話を伺いながら感じたところで、頑張っていこうかなと思っているところでございます。

#### ○松戸市長

どうもありがとうございました。

船橋市としての環境への取組は、環境部長から説明がありましたけれども、昨年、令和4年4月にゼロカーボンシティ推進室を設けて動き始めました。これからより具体的に学校現場、そして事業者の皆さんへのアプローチ、そして市民の皆さん、最初に小島委員から情報の共有というのがあって、実は市として環境問題に取り組んでいくときにこれが非常に大事で、市から今どういった形で取り組んでいますという発信をしていくことも大事だし、あとは学校でもこんなことをやっていますというのをお知らせするのも多分市民の皆さんにとっては刺激になると思います。

ですから、今日は様々ご意見をいただきましたので、令和5年度は具体的に、より拡大して取組を強化していく考えでありますので、今日の意見を参考にしながら取り組んでいきたいと思えます。

教育委員の皆さん、途中で思いついたときでも結構ですので、この間言わなかったけれども、こんなこともいいかもというのがあったら、ぜひご遠慮なくアドバイスしていただければと思います。

それでは、この辺で今回の総合教育会議を閉会とさせていただきます。

#### ○司会（総務部長）

それでは、最後に事務連絡でございます。

船橋市総合教育会議につきましては、開催することが決定した時点で事前に日程の調整等をさせていただいているところでございますが、今後緊急に招集することもございますので、その際にはよろしくお願ひしたいと思います。

以上をもちまして、令和4年度第1回船橋市総合教育会議を閉会といたします。本日は

ありがとうございました。

○松戸市長

どうもありがとうございました。